

2020年	カトリック笹丘教会	福岡市中央区笹丘1-16-1
4月号		Tel.761-4504 Fax761-4524
No.0092	教会ニュース	広報委員会

困難な状況の只中における希望



主任司祭 遠山満

皆さん、主の御復活のお祝い申し上げます。毎日、新型コロナウイルス感染症拡大のニュースが絶えません、それでも、この状態は永遠に続くことはありません。いつか終息していきます。先日、この道の専門家の大学の先生が、ウイルスを撲滅する事はできないので、うまく付き合っていくしかないとおっしゃっていました。また、この困難な状況乗り越えて行く為には希望が必要であるとも仰っていました。それでは、私達は、このような状況の中で、どのような希望を持つことが出来るのでしょうか。

ある男性が、蝶の蛹を見つけました。ある日、小さな穴が現れました。彼はそこに座り、蝶が小さな穴を通して身体を外に押し出そうと格闘しているのを、何時間にも亘って眺めていました。それから、戦うことを止めてしまったかのようにになりました。あたかも限界に達したかのように見えました。それで男性は、援助しようと決心しました。彼は、鋏を取り出し、蛹の残りの部分を切り取りました。蝶は、容易に姿を現しました。けれども、それは、膨れた体と小さな、しぼんだ羽を付けていました。男性は、続けて蝶を観察しました。何故なら、後で羽が大きく広がり、それを支える身体も、同時に引き締まるだろうと期待したからです。けれども、どちらも起こりませんでした。事実、蝶は、生涯の残りを、膨れた体としぼんだ羽で、はい回りながら過ごしました。それは、決して飛ぶことが出来ませんでした。親切で、性急だった男性が理解していなかった事は、小さな穴を通る為に蝶に求められる戦いや自由を制限する制約（それによって身体が絞られるのですが）は、蝶の身体から体液を羽に運ぶ為の神の手法だったのです。そのようにして、蛹からの解放に一度到達した蝶は、飛ぶことに関して準備が整うのでした。

時々、戦いは、私達の人生の中でも必要な事です。もし神が、私達の人生に如何なる障害物がある事をも赦されないなら、私達は無能になってしまう事でしょう。私達は、これまで成れたように強くはなれなかった事でしょう。私達は、決して飛べなかった事でしょう。それゆえ神は、その憐みの故に、私達の人生に障害物がある事を赦され、私達に挑戦されるのです。

新型コロナウイルスが世界中に蔓延しています。けれども、これを乗り越える事によって私達は、個人としても共同体としても成長する事が出来るという希望を持ちましょう。そして毎日、お互いの為に祈って参りましょう。

繋がりを思い起こしましょう



新型コロナウイルス感染症の拡大をさせないために、四旬節、そしてご復活祭までもがごミサを始め、全ての行事も延期、中止になりました。その後も赦しの秘跡、ご聖体拝領もない日々が続いています。人生はじめての経験です。多分皆さんもそうだと思います。秘跡に飢え乾く、まるで250年前のクリシタンの時代に迷い込んだような気持ちです。

私は四旬節の聖なる三日間の典礼は不謹慎にも各地のオンラインでの典礼にあずかりました。便利な世の中になったものだと感慨に耽りながら。そして、東京教区の菊地大司教様は復活の主日の説教で次のように話されました。『オンラインミサはミサの選択肢を増やしたのではなく、教会が私たちの生活の中に入って来たのです。日曜日だけのパートタイム信者ではなく、平日も含めたフルタイム信者にならなければなりません。教会は港に繋がれている船ではなく、現実世界の荒波に漕ぎ出していく船なのです。』と。

ところでこのような状況下、皆さんは笹丘小教区共同体のどなたかのお顔が浮かびましたか、『あの方はどうされているかしら、大丈夫かしら、』と。多分皆さんそれぞれ電話やメールなどで連絡をとりあっていたことでしょう。主任神父様はなんとかみなさんと繋がりが切れないようにいろいろ心配されて、「聖書と典礼」などを送られています。残念ながら信者会としては、緊急連絡網を利用してごミサの中止等を連絡しただけでした。日常的な繋がりを含めた共同体の在り方を考えさせられています。もちろんこんな異常な状態はそう長くは続かないと思いたいのですが、まだ先は見えません。普段からの共同体の繋がりをどう構築するか真剣に考えたいと思います。

皆さん、とにかく今は共に祈りましょう。世界中の人々のために祈られているフランシスコ教皇様と心を合わせて、新型コロナウイルスに苦しむ人びとのため、医療従事者のために。そして、フランシスコ教皇様ご自身のためにも祈りましょう。復活された主キリストに希望を託しましょう。

マリア様の取り次ぎを祈りながら。



信徒会長 川原 義広



「レジオマリエ」をご存じですか？



第8回

ご復活おめでとうございます。4月も半ばを過ぎ、桜の花も散ってしまいましたが、新型コロナウイルス感染症の勢いは、残念ながらますます広がっています。枝の主日、聖なる3日間を含む聖週間の典礼に集うことができず、ご復活のミサを皆で祝うことができない前代未聞の事態となりました。施設や病院にお世話になっている家族や信者さんに会うことができなくなり、卒園・卒業式、入園・入学式なども通常通り行われず、と、不安や心配なことが続きますが、教皇様の言葉に耳を傾けるとこのパンデミックは、真の意味で私たちがひとつになる大切な機会なのでは、と思われました。「キリストのうちに一つになれば、私たちは決して独りではありません。それどころか、キリストをその頭とする一つのからだを形作っているのです。この一致は祈りと、聖体を授かることができない時に強く勧められる霊的聖体拝領に養われます。」

(2020.3.29「カトリック新聞」より)

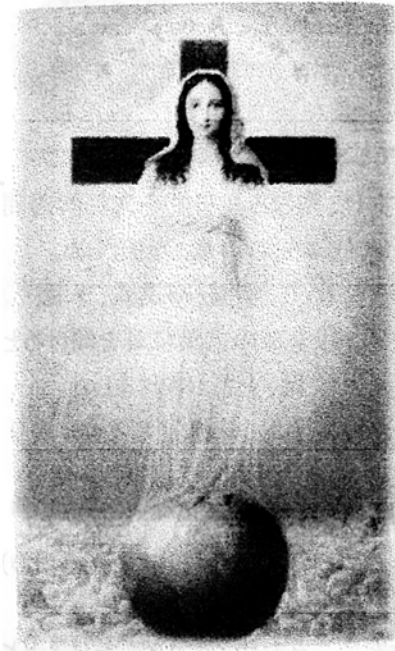
あわせて、亡き松永久次郎司教様の本の中の、心に響いた箇所を紹介させていただきます。

「マリアは、キリストの苦しみと死に参与なさいました。身もこころも近くにいてキリストと十字架の道を共にされました。けれども物理的には何もなさいませんでした。何もできませんでした。キリストの十字架を助け担うのは、あのときのマリアの務めではなく、キリストと共に死ぬのは神のみ旨ではありませんでした。何もできないまま、ただ愛の中ですべてを共にするのが、十字架の神秘におけるマリアの役割だったのであります。

まことに、活動がすべてではありません。体の死がすべてではありません。外的活動より貴重な愛の参加があります。体の死より耐えがたい死があります。キリストが十字架を担い、マリアが見守り祈る、キリストが十字架上に死に、マリアが側で最愛の子の死を耐える、この二つの愛、二つのこころの分かち合いの中に十字架の犠牲は全うされたのです。キリストの十字架はそのままマリアの十字架となりました。キリストの死はそのままマリアの死でもありました。そしてこの苦しみと死は、御父のみ摂理によって、異なった二つの形において分かち合われることになっていたのであります。…略… キリストは復活なさいました。私たちはキリストが世の救いのため、十字架の犠牲を全うし、死去なされたことを信じますが、同時に死に打ち勝ち、輝く栄光の姿に復活なされたキリストを信じる者です。」(松永久次郎著「ロザリオのこころ」より)

教皇様のお膝元バチカンのあるイタリア、同じくカトリック信者の多いスペイン、フランス等の国々で新型コロナウイルスに感染する人々が多数出ていますが、自らの危険を顧みず、周囲の人に愛を示す行いも、多々見聞します。日本でも、手作りのマスクを必要なところに贈ったり、仕事を失った人や高齢者の多く住むマンションの家賃が減額されたり、と嬉しい報道もあります。また、1年の空位を経て、新司教様が決まるという喜びのニュースも飛び込んでまいりました。今は聖堂に集うことはできませんが、心ならずも感染してしまい亡くなられた方々、闘病中の方々、経済的影響を受け困窮している方々、予防のための道具が足りない中で、感染の危険の中医療行為をしている方々のために、引き続き、皆様と心をひとつにして祈り続けたいと思います。

(2020.4.17 記)



すべての民の御母の祈り

主イエス・キリスト
御父の御子よ
あなたの霊を今
全地の上に遣わしてください。
すべての民が
墮落、災害、戦争から守られるよう
すべての民の心に
聖霊を住まわせてください。
聖母マリア、
すべての民の御母が
わたしたちの執りなし手でありますように。
アーメン

詩編 46 (1~7, 11, 12)

神はわたしたちの避けどころ、わたしたちの砦。
苦難のとき、必ずそこにいまして助けてくださる。
わたしたちは決して恐れない
地が姿を変え
山々が揺らいで海の中に移るとも
海の水が騒ぎ、沸き返り
その高ぶるさまに山々が震えるとも。

大河とその流れは、神の都に喜びを与える
いと高き神のいます聖所に。
神はその中にいまし、都は揺らぐことがない。
夜明けとともに、神は助けをお与えになる。
すべての民は騒ぎ、国々は揺らぐ。
神が御声を出されると、地は溶け去る。

「力を捨てよ、知れ
わたしは神。
国々にあがめられ、この地であがめられる。」

万軍の主はわたしたちと共にいます。
ヤコブの神はわたしたちの砦の塔。

編集後記

皆さん元気にしてらっしゃいますか？私の一こまを紹介。「ミサ中止」2月にこの通知を受けた時衝撃を受けました。そして杉原神父様の通知の文面にコロナウイルス問題のこの大きさと、同時に私たちがとるべき姿勢のすべてが記されていると悟りました。杉原神父様が長い時間お祈りされている姿も目に浮かびました。私は逸る気持ちで日ごろ仕事でミサに来られない方にも是非このお便りを読んでもらいたいと思い、張りきってプリントして配りました。といっても3件だけですが・・・。

あれから2か月ほど過ぎました。今に加えて大きな自然災害に遭遇しないことを祈るばかりです。そんな時に福岡教区新司教様着任という、嬉しいお知らせが来ました。希望を持ちましょう！（J.N）